

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成29年 2月28日更新

事務事業名		農村集落竹林整備事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり			所属部	事業部	課長名	森山 邦彦
	施策	9	住環境の充実			所属課	農政課	担当者名	井芹 和幸
	施策の柱	27	みどりの景観の保全			所属班	農政班	(内線)	1174
予算科目		会計一般	款6	項2	目1	事業連番10288	根拠法令	合志市農村集落竹林整備補助金交付要綱 成果優先度評価結果 : ⑪ コスト削減優先度評価結果 : ⑥	
終了、開始年度		☐ 27年度で終了 ☐ 27年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	農村集落竹林の保全、環境の保全と特産物（たけのこ）生産につながるよう、啓発を含め、間伐及び全伐整備実施者に対し助成を行う。 ・間伐整備の場合・・・10a当り 50,000円 ・全伐整備し市が認める樹木を植栽の場合・・・10a当り 100,000円 農村集落周辺で荒れ果てた竹林が多く、景観が悪いことから、集落周辺の景観の醸成と、自然的地域特産物の生産拡大に繋げる目的で、旧合志町で要綱が制定された。旧合志町の要綱を合併後も市要綱で制定し、事業を継続している。 交付申請件数は毎年あり、年々、整備面積は広がりつつある。
【業務の流れ】	補助金の申請受理、審査、交付決定、支払い、竣工確認、交付確定事務
【主な予算費目】	負担金補助及び交付金
【意見や要望】	議会より、整備補助について、委託（請負）を対象としているが、個人が伐採した竹林整備にも補助対象となるような要綱の見直し等の補助基準緩和の指摘があった。総合政策審議会や議会からは、緑の景観整備や里山整備・保全としての整備意向もある

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動) (DO)		28年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
竹林整備事業者からの補助金の申請受付、補助金の交付		竹林整備事業者からの事業申請受付から補助金確定までの一連事務	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
⇒ ア 申請件数	件		
⇒ イ			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
農村集落内の竹林所有者	人	⇒ ア 申請者数	人
⇒ イ		⇒ イ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	
農村集落内の竹林が適正に管理できる	m	⇒ ア 整備ができた面積	m
⇒ イ		⇒ イ	
* ③ 成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠 投資量＝整備できた面積事業内容が、経費助成事業である			総トータルコスト 全体計画 ～ 年度 0

(2)各指標・総事業費の推移											
		単位	25年度 実績(決算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	29年度 予定	30年度 見込	31年度 見込	
① 活動指標		ア 件 イ	9 -----	4 -----	6 -----	4 -----	6 -----	6 -----	6 -----	6 -----	
② 対象指標		ア 人 イ	9 -----	4 -----	6 -----	4 -----	6 -----	6 -----	6 -----	6 -----	
③ 成果指標		ア m ² イ	9,939.4 -----	6,039 -----	6,000 -----	6,032 -----	6,000 -----	6,000 -----	6,000 -----	6,000 -----	
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円		269	300	196				
		繰入金	千円								
	(A) 事業費計	一般財源	千円	266			300	104	300	300	300
		(A) 事業費計	千円	266	269	300	300	300	300	300	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	人件 費	正規職員従事人数	人	3	5	4	4	4	4	4	
		延べ業務時間	時間	102	232	250	180	250	250	0	
		(B)人件費計	千円	406	924	996	668	996	996	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	672	1,193	1,296	968	1,296	1,296	1,296	300	

事務事業名	農村集落竹林整備事業	所属部	事業部	所属課	農政課
-------	------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（CHECK）

*原則は27年度の後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②28年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 “未整備の竹林はかなり見受けられるため、補助率の見直しや要件の緩和をすることで、申請が増加すること。 又、広報掲載等による事業周知を図ることにより達成できると考える。”
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 補助金の内容の周知徹底（広報掲載）や、補助率の見直し及び要件の緩和を行なうことで利用者を増やすことができると考える。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 農政課で実施している事業の背景には、この要綱に自然的特産品の生産につなげる内容があるが、総合政策審議会や議会からは、緑の景観整備や里山整備・保全につなげる方向も示されており、都市計画課等で新たな景観保全のための補助が始まれば統合又は連携できる。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 申請件数が増加すれば事務量も増えるが現人員で対応できる。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 みどりの景観が保全されることによる受益者は市民全体であると考えられるので公平である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 市補助事業に対する一連の事務であるため、行政以外での対応はできない。

3 評価結果の総括（CHECK）

--

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 他課の業務との連携や事業の統合の検討																						